

「地政学リスクの高まりが日本経済に及ぼす
インパクトを考える」委員会
第9回柴田委員会

中東と地政学とトランプ政権

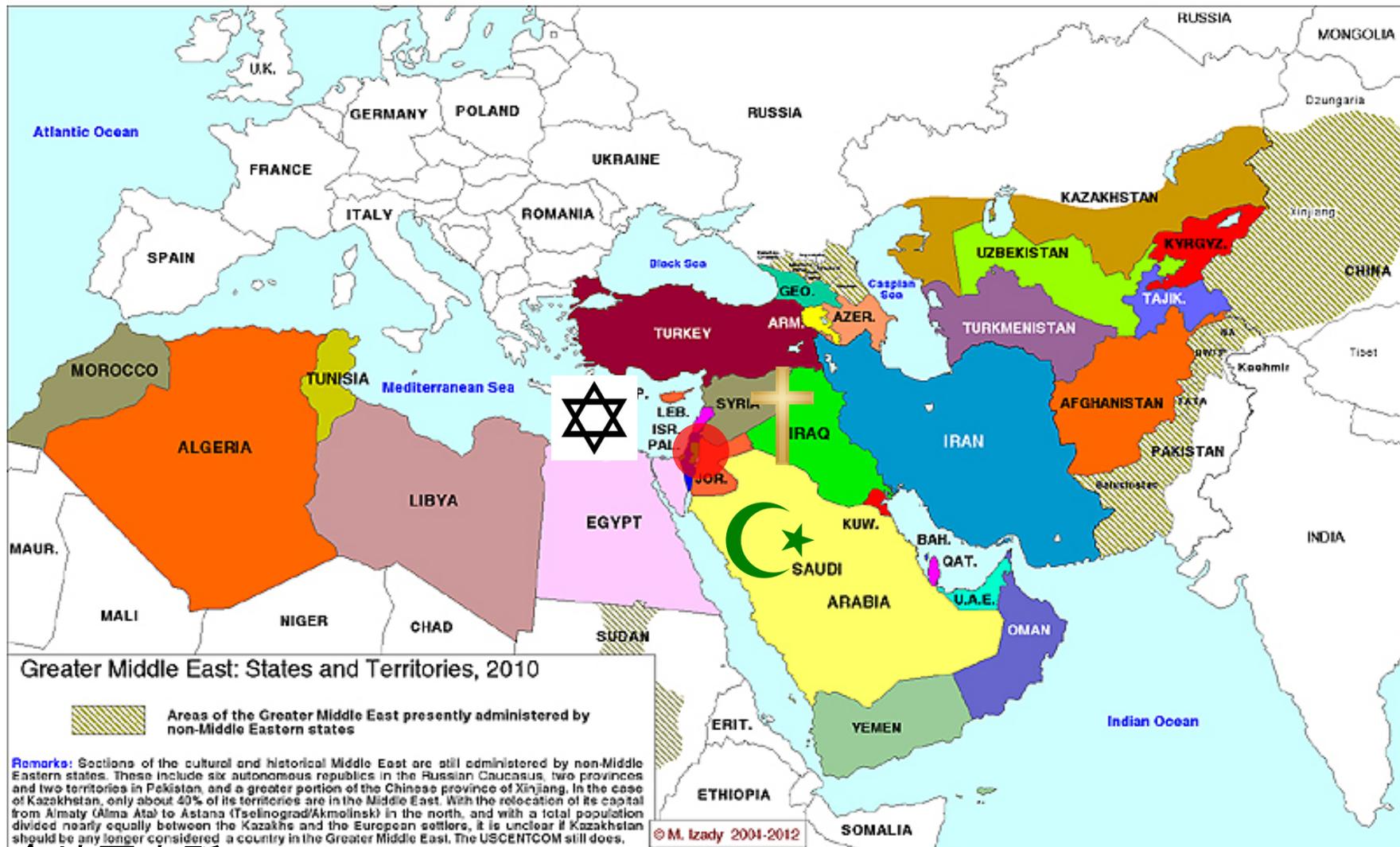
一般財団法人 日本エネルギー経済研究所
中東研究センター
田中 浩一郎

2017年3月17日

はじめに: 中東と地政学

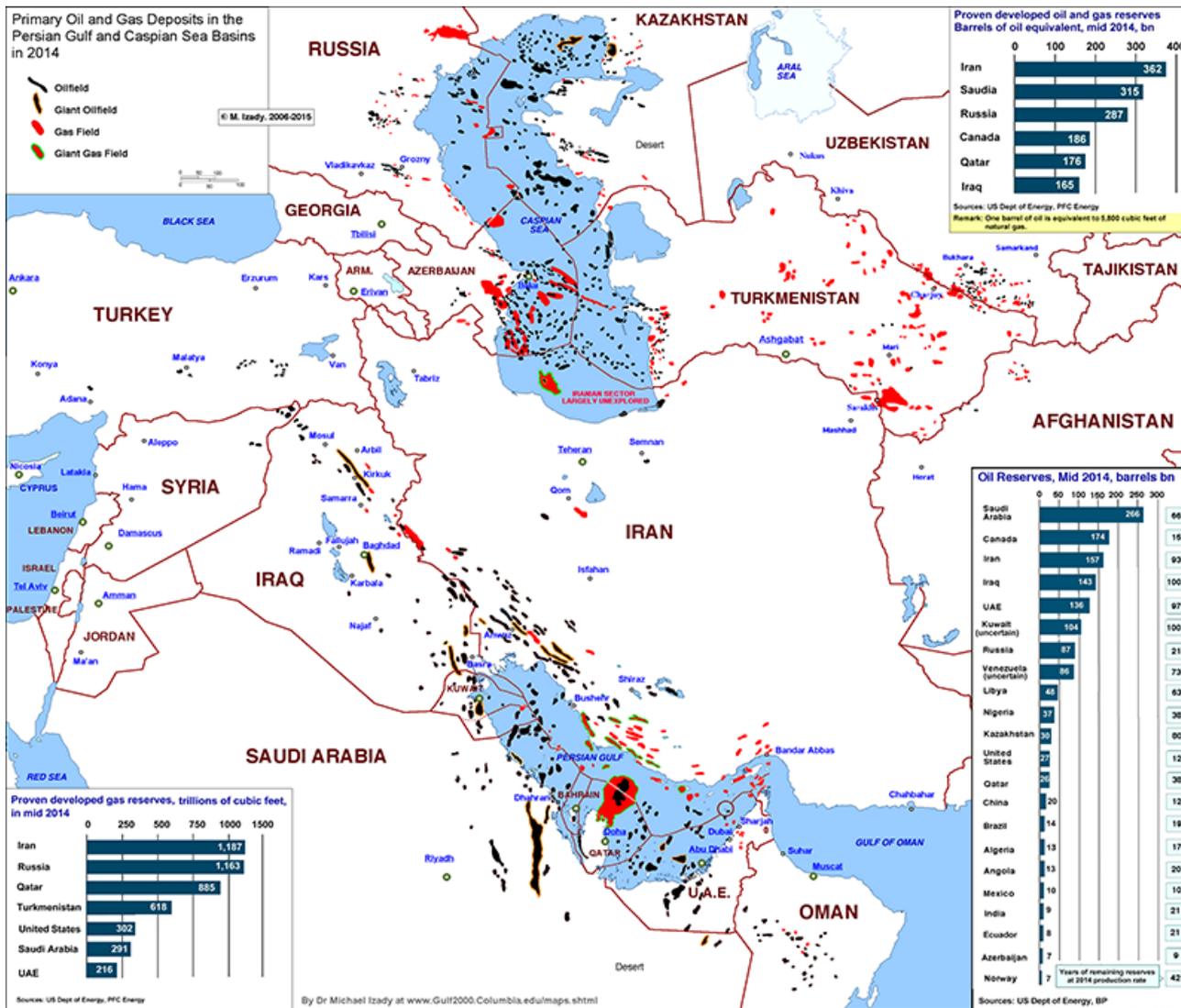
- 核心的利益
 - 3大セム系(アブラハム系)宗教の聖地
 - 化石エネルギー資源
- チョークポイント
 - ホルムズ海峡
 - バーブルマンデブ海峡とスエズ運河
 - ボスフォラス海峡
- 前線
 - “不安定の弧”
 - “悪の枢軸”
 - “シーア派三日月地帯”

中東・北アフリカ・中央アジア地域



全地図出所: Columbia University SIPA Library

中東の化石エネルギー資源の分布



中東と周辺地域における米軍基地



中東にかかわる伝統的な不安定要因

- 宗教・信仰に根ざした相克
 - アラブ・イスラエル紛争
- エネルギー供給の減少・途絶
 - 2つのオイル・ショック
- 領有権をめぐる対立
 - イラン・イラク戦争
- 大量破壊兵器の開発・使用・移転
- 拡張主義・覇権主義による衝突
 - 湾岸戦争
- 失敗統治～体制秩序の崩壊～過激主義とテロ
 - イスラーム国(IS)

新たな不安定要因

- “アラブの春”と「民主化」運動
 - シリアおよびイエメン内戦など
 - イラン核合意
 - 域内対立の激化
 - 独自の外交・安全保障政策の追求
 - サウジアラビア、UAEなど、米国の同盟国の自立的行動
 - ステータスクオを揺るがすトランプ・ファクター
 - “安保ただ乗り”批判
 - イスラーム7カ国入国制限令
 - 米国大使館のエルサレム移設計画
 - Two State Solution追求姿勢の後退など
- “宗派对立”



動揺する中東の構造的な背景

“アラブの春”で同盟国を助けなかった米国

中東への関与低下 (“アジア・シフト” “リバランス”)

✦ イラン核交渉～合意～制裁解除と国際社会復帰

＝ “オバマ・ドクトリン”と米国への不信が、独自の積極外交・安全保障政策を志向させ、それが域内の不安定化に拍車をかける

⇒ トランプによる「方針転換」は必至



トランプの対中東政策に関する問題点

- イラン核合意に代わる**現実的な有効策なし**
 - 批判論者として効用を素直に認められない政治事情
- **ポスターチャイルド**として便利なISの活用
 - 実体が見えない計画のゴリ押し ⇒ 関係国との齟齬
 - 端から調整が難しかった米口間の協調・協力
- 国際社会が維持に苦心してきた**「現状」の否定**
 - 剥きだしのエゴや直線的な利益の追求による災禍
- “アラブの春”が示した**教訓の軽視**
 - すでに顕在化している危険因子の放置
- 中東地域の広義での**安定性に対する無関心**
 - OPEC敵視が生じる波紋

トランプの対中東政策に関する問題点

- 特殊部隊派遣による掃討作戦の限界
 - 対テロ戦争での大きな進捗は困難
 - 同盟国の冒険主義に対する刺激
 - 独善的な行動を惹起することで増す、緊張と混乱
 - 特定情報源への依存と「新人」の登用による弊害
 - 経験知の欠如がもたらす一方的な政策判断
 - イスラーム6カ国入国制限令(執行差し止め中)
 - 「イラクの石油を篡奪する機会再来」(冗談?脅迫?)
 - ムスリム同胞団とイスラーム革命防衛隊のFTO認定(検討中)
 - シリア北部での“安全地帯”設置(検討指示)
- ⇒ 誘導され易いし、中東地域の安定をこれまで以上に損なう危険性が上昇

トランプと中東諸国首脳との接触

- 大統領就任後に電話会談を実施

- ネタニヤフ・イスラエル首相
- スイスィ・エジプト大統領
- サルマーン・サウジアラビア国王
- ムハンマド・アブダビ首長国皇太子
- エルドアン・トルコ大統領
- タミーム・カタール首長

- 米国で首脳会談を実施

- ネタニヤフ・イスラエル首相
- ムハンマド・サウジアラビア副皇太子

⇒ オバマと関係が悪かった「親米」指導者が中心

トランプとすり合わせが進むイスラエル

- トランプ＝ネタニヤフ電話会談
 - 軍事・インテリジェンス・治安協力の重要性
 - イスラエルの安全保障に対する米国の「前例のない強いコミットメント」
 - ISなどの過激組織の打倒が最優先課題
 - **イランが発する脅威への対応を協議**
 - 中東和平の達成のためにイスラエルと緊密に対応
- 2月15日に首脳会談実施
 - トランプは**イラン核合意を「最悪の合意」と改めて批判**
 - ネタニヤフは**イランによる核兵器取得阻止**で米国との連携を確認



トランプに期待したいエジプト

- トランプから申し込んだ電話会談
 - テロと過激主義に対応するエジプトの労をねぎらう
 - 準備が進められているスィスィ・エジプト大統領の訪米への期待を表明
 - エジプト軍への支援継続を約束
 - エジプトの経済改革への支援も議題として提案
- ⇒ オバマともっとも関係が悪かったスィスィとの関係修復を優先した感あり



トランプと関係改善を期待するトルコ

- エルドアン・トルコ大統領との電話会談
 - トルコを「古くからの緊密な戦略パートナーであり、**NATO同盟国**」として評価
 - 両国はあらゆる形態でのテロと戦う決意を確認
 - エルドアンは以前からオバマに伝えていた**懸案事項への言及を避ける**
 - F.ギュレン氏の身柄引渡し請求
 - 米軍によるYPG支援への不快感
 - 議題から外れた重要事項も多数あり
 - シリア内戦、アサド大統領の処遇、イラン



⇒ **互いに相手国への疑心が存在する中、摩擦が生じない事項で関係の再構築を進める意向**

トランプを誘うサウジアラビア



- サルマン国王＝トランプ電話会談
 - 地域の不安定化をもたらすイランの活動に対処
 - IS打倒が両国にとっての優先事項
 - 国王はムスリム同胞団とビン・ラーディンの関係を力説
 - シリア、イエメン「安全地帯」の設置で見解が一致

● トランプと副皇太子の会談

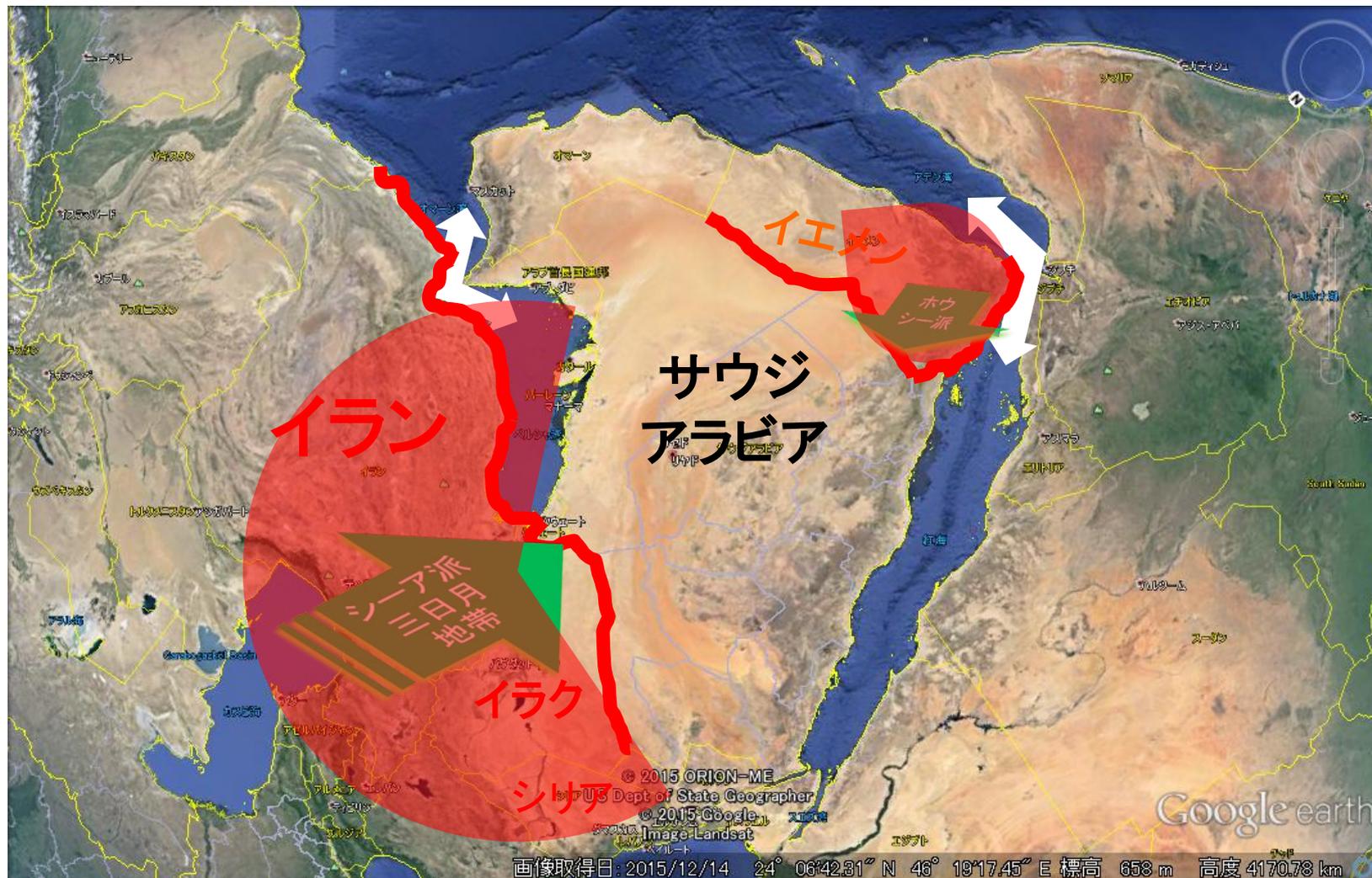


- 「地域にとってイラン核合意は災い」
 - 「トランプはイスラーム教徒の真の友」
 - 「物事を正しい軌道に乗せた、歴史的転換点」
 - 米国はサウジへの精密誘導弾の売却へ
- ⇒ 米国の対イラン政策の転換と共同戦線の構築を確認する一方、トランプを特定の方角へ誘導

トランプの米国に期待しないイラン

- 相手の出方を待つ慎重姿勢
 - 端から幻想を抱かず、米国の影響力減退を見込む
- 二重の楽観論が混在
 - 実利の極大化を求める“ビジネスマン”たちへの期待
 - 欧州諸国との関係改善で足りるとする、甘めの認識
 - トランプによるJCPOA破棄は対米強硬派の望むところ
- 中距離弾道ミサイルの発射は年間恒例行事
 - トランプ政権はオバマ政権に倣った措置を採用
 - 性急なJCPOAの破棄は避けたい米国の姿
- イエメン沖で散る火花
 - ホウシー派のサウジ船攻撃を、イランの対米軍攻撃と誤認する米国

サウジアラビアの脅威認識(想定)



サルマーン体制下のグランド・デザイン

政策・イベント	標的および効能	ツール
低油価誘導	イラン、ロシア、シェール生産業者、IS	増産余力、OPEC内紛、テロ脅威
シーア派(イラン)封じ込め	アワーミーヤ(サウジ東部州)、バハレーン、イラク、ヒズボラ	テロ対策 内政干渉非難
イエメン軍事介入	ホウシー派(イラン)、サーレフ前大統領、AQAP	国防意識 宗教心
シリア軍事介入	アサド、イラン、ロシア、クルド、IS、旧ヌスラ戦線	同胞意識 宗教的道義
イスラーム41カ国反テロ連合形成	IS、AQ、ヒズボラ、アサド、イラク、イラン	財政支援、テロ脅威、シーア派(イラン)警戒
「ビジョン2030」と「国家改造計画」	財政健全化、経済の低油価抗堪性、サウジ社会の変革、(対イラン)国力増強	有事意識、宗教的道義



⇒ 一つの失敗で**全体が崩壊**しかねない相互関連性

わが国が対応を検討すべき諸事象

- トランプ政権内の**政策的な混乱**
 - 第三国による誘導と外交・安全保障面での政策上の矛盾
- 中東地域の広範な不安定化と**域内対立の激化**
 - 全般的な中東での不関与姿勢の下で、米国が例えばイエメンで部分的に過剰介入する可能性
 - イスラエルやサウジアラビアの対イラン強硬姿勢が地域にもたらす緊張
- “Vision 2030”**対サウジ協力の「落とし穴」**
 - サウジアラビアが“One Belt, One Road”を進める中国とシーレーン確保で協働
 - 調達資金の流れ：日本→サウジ→米国
 - ↳ 中国→海軍力増強！

各方面への波及

- イラン制裁解除・緩和の**グレーゾーン**残存
 - 米国は不透明性の解消にかかわる作業を停止
- 油価の**ボラティリティ上昇**の可能性
 - シェール増産体制 vs. 中東地政学リスクの再上昇
 - 今夏以降の**OPEC生産調整**は米国の**対イラン原油禁輸措置の再発動**をどこまで織り込むか
- 中東和平**オスロ合意の死滅**
 - トランプの入植地拡大容認姿勢で決定的ダメージ
- イラン大統領**選挙の波乱**
 - トランプの強硬姿勢で対米交渉推進論の後退
- トランプも消し去ることはできない**JASTA**